

カンキツ黒腐病に関する研究  
(第6報) 防除薬剤と防除時期

小野 公 夫

(長崎県果樹試験場)

ONO, K.

Studies on the Citrus Black Rot.  
(6) Controlling Fungicide and Period.

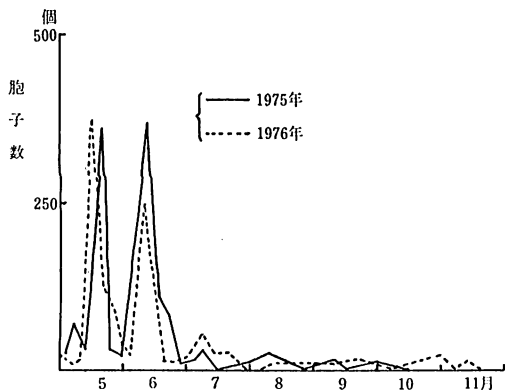
ミカンの貯蔵病の防除は、通常、収穫前の防除剤散布によって行われている。しかし、この方法では、幼果期に病原菌が果実内に侵入、潜伏している黒腐病に対しては、全く効果が認められない。このため防除時期、防除薬剤を明らかにする目的で、病原菌胞子の飛散状況を調査し、また幼果期に薬剤の立木散布を行って防除効果を検討した。

材料および方法

1. 胞子飛散調査：胞子の採集は、グリセリンゼリーを塗布したスライドガラスを装置した回転式胞子採集機を、温州ミカン成木の直下に置いて行った。採集は5月中旬から11月まで5日ごとに、9時から17時まで1時間おきに行った。胞子数は日平均値で示した。

2. 薬剤処理と胞子の発生状況調査：処理はコロジオン膜法で行い、処理5、24時間後の発芽阻止状況を測定した。

3. 薬剤散布による防除効果試験：所定の時期にオキシンドー75水和剤600倍の散布を行い、12月上旬に収穫し、処理別に貯蔵し、3月まで発病状況を調査した。試験規模は1区2樹5反復で、1樹当たり100果を供試した。



第1図 黒腐病菌胞子の飛散状況

結果および考察

胞子の飛散数は、落花期の5月中～下旬と幼果期の6月に急激な増加がみられ、7月から9月にかけて小さなピークがいくつかみられた。このことから黒腐病の主な防除時期は、5月中旬から7月までの期間と思われる。

胞子発芽阻止力の最も強い薬剤はオキシンドー75水和剤であった。

オキシンドー75水和剤を用いた散布試験で最も効果が高かったのは4回散布で、5月中旬あるいは7月上旬の散布を省いた3回散布でも有意な効果がみられた。

第1表 薬剤処理と胞子の発芽

供試薬剤	成分量	発芽率	
		5	24時間後
ベンレート水和剤	250 ppm	39.5 %	71.4 %
トップジンM水和剤	700	47.3	60.6
ダイセン水和剤	1300	35.1	61.5
オキシンドー75水和剤	997	26.0	35.6
コサイド水和剤	290	30.1	42.3
蒸留水	—	62.3	80.0

第2表 オキシンドー75水和剤の散布と防除効果

処 理	調査 果数	発病率(累積)			無散布に 対する有 意性
		1	2	3月	
○ ○ ○ ○	1048	0.38 %	1.72 %	2.39 %	* *
— ○ ○ ○	1015	0.30	1.97	3.35	* *
○ — ○ ○	1030	0.87	4.17	6.21	N. S.
○ ○ — ○	1013	1.48	3.16	6.42	N. S.
○ ○ ○ —	1173	0.43	2.73	4.35	*
— — — —	1030	0.19	3.11	6.60	—